

【研究概要】

(新規課題)

転写因子Foxp3 および Ikzf1 のタンパク質間相互作用阻害による制御性 T 細胞を標的とした新たながん免疫療法の開発

(免疫学フロンティア研究センター、特任准教授(常勤)・市山健司)

制御性 T 細胞 (Treg) は自己に対して免疫寛容を誘導する一方で、がんの免疫逃避機構にも寄与することが知られている。我々はこれまで、Treg の機能安定性維持に転写因子 Foxp3 と Ikzf1 の相互作用が重要な役割を担うことを明らかにしてきた。本研究課題では、化合物ライブラリーを用いたハイスループットスクリーニングを実施することで Foxp3 と Ikzf1 の相互作用を阻害する化合物を探索し、Treg を標的とした画期的ながん免疫療法薬の創出を目指す。